



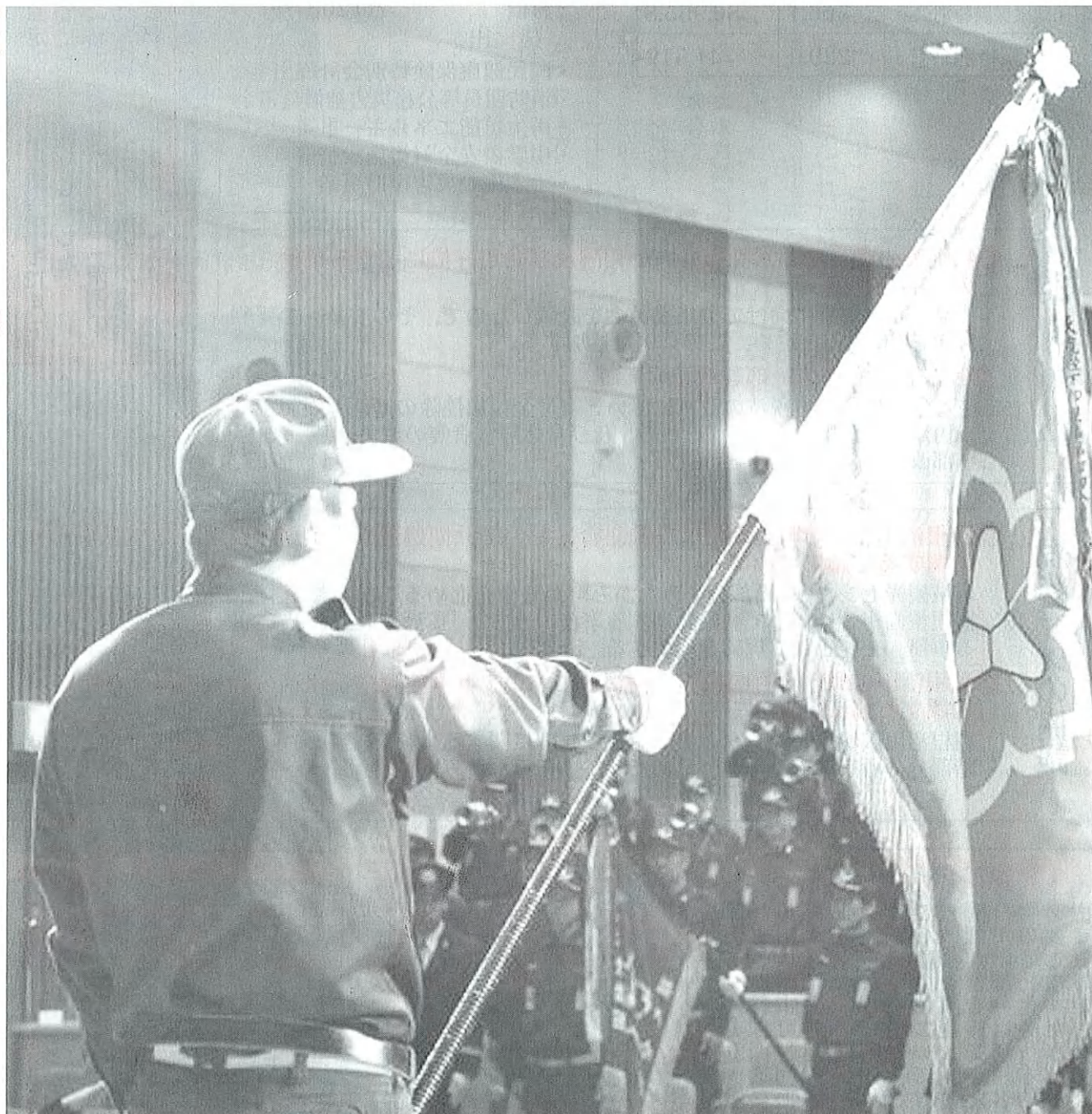
議会だより

発行 片品村議会

No. 131

2012. 2. 15

かたしな



片品村消防団の出初め式(1月6日、片品村文化センター)

主な内容

- 平成23年度12月補正予算、条例改正、人事、「議会の今は？」……2～3
- 12月議会(第7回定例会)で5名が一般質問……………4～8
- 各常任委員会の審議及び行政視察報告、議会活動……………9～12

平成23年12月 各会計別補正予算の状況

(単位：万円)

会計名	補正額	補正後の予算
一般会計	9,619.7	372,292.5
国民健康保険特別会計	566.1	86,955.8
介護保険特別会計	220.9	41,519

主な一般会計補正予算

- 歳入
- ・村たばこ税 2800万円
 - ・地方交付税 6961万円
 - ・県補助金 933,7万円
 - ・負担金 108,9万円
 - ・村債 △1200万円
- 歳出
- ・国民健康保険特別会計繰出金
 - ・消防団員等公務災害補償負担金
 - ・再生可能エネルギー事業
 - ・中学校安全対策施設整備事業
 - ・土木施設災害復旧事業

平成23年第及び7回定例会(12月議会)を12月7日(13日までの7日間)にわたり開催しました。「一般会計補正予算」「特別会計補正予算」「条例の一部改正」「教育委員の任命」などの9議案が提案され、いずれも原案どおり可決しました。

条例改正

◎特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正

片品村誌の編集に向けて編集委員会を設置したので、その委員への報酬日額を8,000円と定め、この条例に追加する。 [全員賛成]

◎片品村税条例の一部を改正

主なものは、地方税法の改正に伴い、寄付金税額控除の適用下限額を5千円から2千円に引き下げるもの、及び身体障害者等の減免に基づく一部改正。 [全員賛成]

規約変更の協議

◎利根沼田広域市町村圏振興整備組合において共同処理する事務の変更、及び規約変更に関する協議について

広域観光センター1階部分をみなかみ町が整備を進めることとなり、利根沼田広域市町村圏振興整備組合において共同処理する事務のうち、「広域観光センターの設置及び管理に関する事務」を廃止し、規約を変更する。 [全員賛成]

◎利根沼田広域市町村圏振興整備組合において共同処理する事務の廃止に伴う財産処分に関する協議について

利根沼田広域観光センターの設置及び管理に関する事務を廃止し、同センターの土地及び2階部分の所有者で管理運営にあっているみなかみ町に1階部分を帰属させる。 [全員賛成]

ワンポイント解説

利根沼田広域観光センター
上越新幹線開通に合わせて昭和57年11月利根沼田広域市町村圏振興整備組合と民間会社の共同事業により建設され、旧月夜野町が運営管理していた。
平成21年民間団体からみなかみ町に2階部分が無償譲渡され、この部分については施設の大規模改修を実施し、みなかみ町が管理運営をしてきた。
1階部分は利用客の減少や建物の老朽化等抜本的な見直しが必要となったが、みなかみ町が引き受けた。



ワンポイント解説
一部事務組合の規約の変更や財産処分については、組織団体間で協議によりこれを定める。この協議は、組織団体の各議会の議決を経た上で、県知事の許可を受けなければなりません。

人事

新教育委員に
芝崎 健司氏



「議会同意」

◎利根東部衛生施設組合において共同処理する事務の変更、及び同組合の規約変更に関する協議について
し尿処理施設の老朽化による解体に伴う業務不能により、し尿処理事務を組織市村に返還するために組合規約の変更、及び字句並びに表現の整備。 [全員賛成]



解体されるし尿処理場

請願陳情審議結果一覧表

12月定例会において審議された請願陳情は、下記のとおり決定しました。

陳情

受理年月	件名	陳情者	審議結果
平成23年 10月19日	大幅増員と夜勤改善で安全・安心の医療・介護を求める陳情書	群馬県医療労働組合連合会 執行委員長 石関 貞夫	継続審査
平成23年 11月9日	0.4%の年金引下げをもとに戻すことを求める陳情	全日本年金者組合 群馬県本部 執行委員長 小崎 洋一郎	継続審査
平成23年 11月9日	年金受給者資格期間の10年への短縮を求める陳情	全日本年金者組合 群馬県本部 執行委員長 小崎 洋一郎 ほか	継続審査

◎片品村職員の給与に関する条例の一部を改正
人事院の勧告に基づき職員の基本給の減額等をするため、条例の一部を改正する。
〔全員賛成〕

第6回臨時会

11月25日、第6回臨時会を開催。条例の一部改正について、原案どおり可決した。

議会の今は？

進むか議会改革

2011年

6月議会 議員報酬を「月額18万円→16万2千円（過去最低額）」で、一年間延長[今年4月まで]。固定化には至らず。

〃 「議会だより編集委員会」を刷新。より速く発行し、読みやすい紙面づくりをめざす。

9月議会 議員定数を「14人→12人」に決定 [次の一般選挙より実施] (2010年の決定は「定数14人を変更せず」だった)

12月議会 一般質問を「一問一答方式」に決定

2012年

3月議会 「一問一答」の開始(予定)

〃 「議会だより編集委員会」の特別委員会格上げを審議(予定)

議会傍聴で 思う事



東日本大震災の被災地の皆様にお見舞い申し上げます。いち早く復興支援をされました村当局・議会の方々には感謝しております。

定例議会のつど傍聴させていただいています。6人の新議員におかれましては財政・行政執行について研鑽を積んでおられます。先輩議員と共に村の進むべき方向や考えを議論し、村長から提案された議案内容も慎重審議されております。

村長に対する一般質問も要点を得た素晴らしいものです。「議会だより かたしな」の方も詳細に編集されていて、努力と活動が理解できます。

頑張ってください。期待します。

星野 康一 鎌田 (75才)

で村政を問う！



千明 道太議員

問 片品村の産業の柱である観光の入込み数は、平成4年度をピークとして大幅に減少しており、個々の事業者は必死に耐えています。

今年（平成23年）、群馬デスティネーション・キャンペーン(DC)が開催され、地域の魅力を発信した中で、上毛高原駅から武尊牧場までのバスの運行実績はどうだったのか。

Q DCを一過性に終わらせない事業展開は？
A 中高年層や子ども体験学習等受入れへの取組充実をはかる

答 村長

バス運行は、77日間、合計154人でした。経費負担割合は、県50%、村25%、武尊山観光株式会社と片品村振興公社がそれぞれ12・5%で始めたものです。

問 群馬DCを一過性に終わらせないための今後の事業展開についてどう考えているのか。

答 村長

一過性に終わらせないための誘客対策として、中高年層のリピーター化や子ども体験学習受入れの充実、外国人も視野に入れた取組を行っていきたいと考えています。

来年8月に全国名水サミットを当村で開催し、名水の宝庫のイメージアップを図ってまいります。今後の事業展開について、総合計画シンボルプロジェクトに掲げてある若者の雇用創造へ向けた観光革新に取り組んでいくことであると思っています。

問 近隣市町村との観光連携についての考えはあるのか。

答 村長

近隣との連携ですが、利根沼田エリアとしての共通パンフレットの作成、真田街道や日本ロマンチック街道の取組、日光そば祭りイベント参加による観光PRなど行っております。

問 来年度以降は、直行バスの計画はあるのか。

答 村長
村単独で実施する考えはありません。

問 村の観光資源について、村民に対する周知の方は考えがあるか。

答 村長
村の広報誌やホームページ等でPRしていきたい。

問 連携の關係で、周辺地域を見据えたPRは考えているのか。

答 村長
むらづくり観光課長
広域圏また県民局を通じて連携を取っております。



群馬デスティネーションキャンペーン
2011年7月1日金 ▶ 9月30日金

Q DC中のバス運行実績は？

A 上毛高原駅・武尊牧場間なら、77日間で合計154人だった



上毛高原駅から武尊牧場まで運行

一般質問（5人）



星野 育雄議員

Q どのような方法とスケジュールで実現か？
A 早期に実施したいが、地元と議員の協力を
願いたい。



問 塗川橋架替え工事は用地承諾書提出後、境界確定測量をしてから1年半が経過し、当初予算で詳細設計委託費を2900万円確保したのに、なぜ、まだ発注できないのか。

答 村長

詳細設計委託料については、当初予算に2100万円計上した。本来なら、詳細設計が進んでいくところですが、現在、隣接所有者1名の方の記名押印が得られず、詳細

設計の発注に至っていない。

村道整備は、各地区で地権者承諾をいただき、整備を行ってきた。

今回も幡谷地区の役員さんにお骨折りいただき地権者の承諾を進めてきたが、どうしても1名の記名押印が得られないでいる。

今後もその方への交渉を進めてまいりたい。地元議員の協力をお願いします。

問 法務省通達により、隣接所有者の立会の合理性のない拒否の場合は、調査書に客観的に見ても

妥当性が判断できるような詳細な状況を記載すれば、所有権移転登記ができると専門家は言います。したがって、隣接所有者に関係なく塗川橋架替えの詳細設計をして、その工事の早期着工を判断すべきだと思うが。

答 村長

育雄議員ご指摘のとおりであり、最終的にはその方法で進めたいと思います。現時点では、立会確認書に記名押印いただけるよう今後も願いたい。できるだけ早期に着手できるように進めたい。

問 新塗川橋は2車線歩道付が望ましいと思うが。

答 村長

道路構造令により、この地区の交通量を見ますとほとんど無理です。

御座入橋と同程度の幅員になろうかと思えますが、できるだけ幅員がとれるよう調査を進めてまいりたい。

問 隣接用地の所有者で、絶対反対の方は、どんなにお願いしても承諾してもらえないことが多いと思う。

今後、分筆登記をするか地権者の承諾がもらえる土地に少しルート変更してでも、今、架け替えなければ、橋が崩壊した場合、幡谷への出入りができなくなる。

どのような方法とスケジュールで実現する計画か。

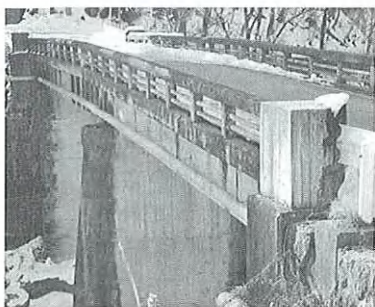
答 村長

私もかつて議員や地元の建設委員をさせていただいた。そういう中で村道や橋や施設というのは、地元議員あるいは建設委員が先頭に立って土地を解決することが仕事だと考えてまいりました。当時、私は、議員として一人で駆け回り、土地の解決に奮闘しました。早期に実施したい考えですので、是非とも地元議員も努力していただきますようお願い申し上げます。



高台から見た塗川橋

Q 塗川橋架替え工事の早期着工は？
A できるだけ早期に着手できるように進める



老朽化が進む塗川橋



飯塚 美明議員

問 第3次総合計画後期基本計画の中のシンボルプロジェクト（注1）について質問します。

答 まず、2つの成功例（注2）を示しながらですが、「村の中心地の活性化」と「若者雇用促進のための拠点づくり」について、現在の進み具合を伺いたい。

問 トウモロコシ街道店舗との共存共栄策についてどう考えているか。

答 村長 トウモロコシ街道の各店舗と村全体が共存

活性化が期待される村の中心地・鎌田の国道通り



活性化が期待される村の中心地・鎌田の国道通り

Q 取組みたい平成24年度事業は？
A 花の谷公園・役場広場・商店街の整備や情報発信などです

共栄を図ることが大切であり、基本です。

全国配送システムやインターネット販売等により、さらに広く販売する施設整備も考えています。

トウモロコシ店舗等の案内チラシの作成紹介、物産館の一部を交代で行うことや、貸しブースの活用、とうもろこし街をつくることなども可能と考えています。

問 プロジェクトの推進を図るため、平成24年度に取組みたい事業は？

答 村長

花の谷公園や役場前のスペース確保のための整備、既存商店施設を活用した整備、情報発信のチラシやマップづくり、名物料理づくり、名物事業、受入体験の充実事業などです。

問 住民の理解と協力を促進する方策をどう考えているか。

ワンポイント解説（注1）シンボルプロジェクトとは村の中心地の活性化と若者雇用促進策です。主なプロジェクト箇所は、

- ① 情報発信センターとしての観光案内所
- ② とうもろこし街（トウモロコシ街道と連携）
- ③ 味どころ（郷土料理店との連携）
- ④ 尾瀬物産館（尾瀬ブランドのアンテナショップ、農家と連携した6次産業化の推進）
- ⑤ 尾瀬画廊、美術館、資料館
- ⑥ 寄居山温泉センター
- ⑦ 温泉センターから花の谷公園までの散策路、等です。

答 村長

村民との協働がむらづくりの基本です。シンボルプロジェクトも協働で進めます。

協働とは、村民に村の基本的な考え方を示し、広く村民の理解を得ながら、一緒に作り上げた素案を実施計画に活かし、着工から完成を経て運営に村民が携わることです。

Q トウモロコシ街道への対応策は？

A 村全体との共存共栄を図りたい 販売策や施設整備も考案中

ワンポイント解説

（注2）二つの成功例
・花の駅片品
・川場田園プラザ

花の駅片品は、オープンより13年を経過し、延来場者数は200万人を超えた。累計売上は25億円以上で、益金が3億円を超えた。雇用は正社員とパート社員を合わせて30名余り。100名を超える農産物販売組合員がいる。

川場田園プラザは、現在、社員26名とパート社員30人を雇用。農産物販売組合員は373名、来場者は年間97万人で、売上は約8億円。



農産物直売でも定評のある花の駅・片品「花咲の湯」



今井 功議員

問 村は、平成23年3月18日に、約1000名の東日本大震災被災者を福島県南相馬市より受け入れ、9月29日には宿泊施設に残る被災者は0名となりました。この間、片品村民と南相馬市民との信頼関係も育ち、絆となって残っています。全国に先駆けて宿泊施設と共に受け入れをし、村が費用の全額負担に出たからでした。この迅速な対応に大きな評価と称賛があった。



被災者受入の宿舎にお礼訪問した議員団

Q 宿泊費や交通費はどのくらい掛かったか。また国の災害救助法の適用により、あとで国から費用の一部が支払われる予定と説明があったが、その費用の総額や支払日は。

答 村長
南相馬市から約1000名の被災者を受け入れたが、議会をはじめ村民及び受け入れ宿、関係者の方々、その他多くの方々の理解と協力をいただいた。あらためてここに御礼を申し上げます。

問 片品村民と南相馬市民との間に姉妹都市のような交流関係を築

いていく考えはあるか。

答 村長
今後の交流関係ですが、避難された方々は、半年におよぶ長期間となったが、受け入れ宿の方々との間には深い絆ができたものと思っています。

問 片品村に被災者支援として多くの義援金が届きました。その額は。

答 村長
410件の方々から3508万2695円もの多くの義援金が寄せられた。

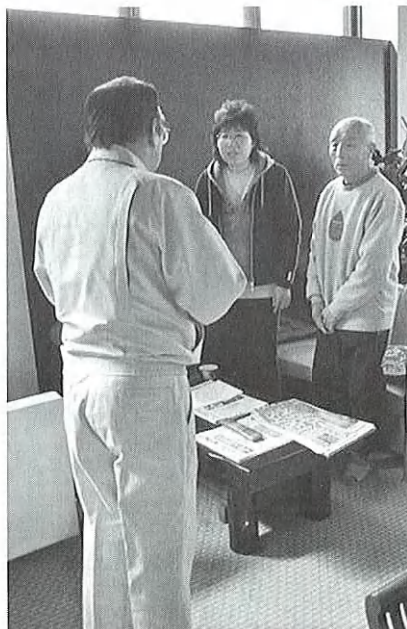
問 この義援金をどのように使われますか。今までの分と残りの部分は。

Q 義援金の使い方は？

A 義援金（約3500万円）は「被災者受け入れ支援」の意に合うよう使用

答 村長
片品村が行う東日本大震災被災者受け入れ支援に対する義援金であり、その意に合うよう

に大切にに使わせていただきます。片品村の行動に賛同・応援してください。一人ひとりに感謝とお礼を申し上げます。



受け入れ宿で、南相馬市からの被災者とあいさつ



東日本大震災被災者の受け入れ宿は村内各地に多数あった



戸丸 廣安議員

問 高齢化社会を迎えて、村民の日頃の健康増進策、特に冬場の体力維持・増強のための効果的な施策はありますか。

例えば全天候型運動施設はいかがか。片品には、おおよそ500名のグラウンドゴルフ愛好者がいます。

冬にも重宝な、グラウンドゴルフ用構造物としては、ガラス窓のプレハブ建物なら、長さ60メートル、横幅30メートルで、付帯スペースを合わせると、建物の長さが70メートルで、横幅35メートル程度となります。

答 村長

片品村でも65歳以上が1470人おり、割合にして28・3%です。今後も元気で幸せな生活を送っていただきたい

Q グラウンドゴルフはストレス解消・医療効果スポーツ目当ての観光誘致になるが？
A 村民の健康増進と観光振興に結構だが、実現は難しい

い。

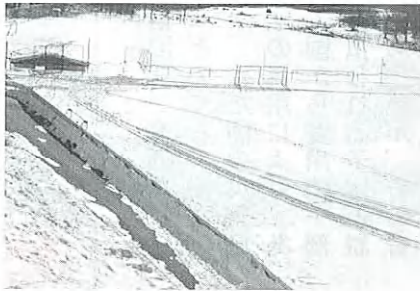
村民が、生涯を通じて健康な生活を送れるよう生活習慣病の予防や介護予防に向けて、生活習慣の確立、各種健診による病気の早期発見・早期治療など健康管理センターを中心に、健康づくりの取組を進めています。

高齢者については、社会福祉協議会が実施するふれあいサロンや小中学校での児童生徒

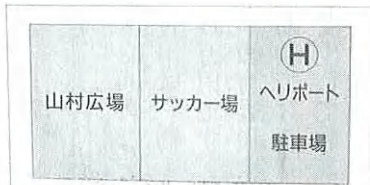
とのふれあい行事などを実施しています。

冬場の体力維持・増強のための効果的な施策は、無理に運動をするのではなく、社会性を維持する方法を地域ごとに進めていくことです。

グラウンドゴルフは、半年間で11回の大会が開催されて、高齢者向けに恰好なスポーツになっていきます。



片品村山村広場案内図



グラウンドゴルフの試合も行われる太田グラウンド今はすっぽり雪の中にある

しかし、全天候型の施設を新たに建設することになると、場所の選定だけでなく建設に多額の費用が掛かります。

片品村では、老朽化した学校の建替えや改修などを早急に検討しなければなりません。

問 全天候型のスポーツ施設であれば、元気なお年寄りを本村にお迎えしたり、シーズンを問わないグラウンドゴルフなどのスポーツ・イベントも開催できますか。

そうした来村者には、片品の名物料理を食べ温泉に浸かって貰うなどしていただければ、ヘルスツーリズムの推進にも役立ちます。

運動施設の充実、該当する村民その他の方々のストレス解消や医療面での効果も期待できます。

答 村長

新たに施設を建設して村民の健康増進と観光振興に生かしていくことは、結構なことですが、実現は難しいと言わざるを得ません。



全天候型運動施設の片品村トレーニングハウス

ただ、体育館の中で、スポーツ吹き矢やスマイルボーリングなど体育指導員を中心に研究されています。今後とも未来を担う子供たちと同様、高齢者の方が健康に希望をもって暮らしていただけるよう努力をしてまいります。

Q 冬の体力維持増強に屋根つきグラウンドゴルフ(施設)が良いか？

A 全天候型施設より老朽化した学校の建替えや改修が早急

委員が慎重に 審議しました！

観光産業常任委員会

総務文教常任委員会

協議事項

一、陳情

① 医師・看護師・介護職員等の大幅増員と夜勤改善で安全・安心の医療・介護を求める陳情↓「継続審査」(理由…健全財政実現案が国会審議中なので、見守る必要がある。)

② 0.4%の年金引下げをもとに戻すことを求める陳情↓「継続審査」(理由…今の経済状況、政府の借金財政を考えると、難しい。)

③ 年金受給資格期間の10年

協議事項

一、平成23年度補正予算

① 集中豪雨への対応について

答 越本花咲線の花咲地区の道路路肩崩壊現場と岩鞍スキー場内の(ホテル脇)路肩下部の崩壊について災害査定を受け、災害対象になり、11月に入札を行い、発注。今年度事業として着手する。

二、その他

② 小水力発電に関しては、委員会で現地視察や講演会をし、また委員会有志で村内14ヶ所を2日間かけて可

12月議会中の12月9日に各委員会を開催

への短縮を求める陳情↓「継続審査」(理由…今の日本では10年というのは難しいのではないか。)

二、平成23年度補正予算

① 村税の滞納額を減らすための徴収努力と結果は

答 夜間整理、分納誓約で徴収、預金を含む財産調査をして差し押さえしている。過年度より徴収率は少し上がった。

② 小水力発電の調査費の使い方
水力発電は自然にやさ

しい電力なので、片品村で小水力発電に適した場所を可能な限り調査をする。

③ 1区に配備された除雪車の所有は、区か村か。維持管理は区でするのか

答 宝くじ補助金で購入して、区にやったので、区で維持管理していただく。宝くじ補助金の使い道は、区まわりに決まった。来年は5区の予定。
三、その他

① 放射線量の確認は
村民及び観光客の安心

められれば、電気自動車500台を貸してもらえ。推移を見守っていききたい。

② 中心地活性化について

答 「委員会合意」中心地を元気にさせる方法をこれから研究しながら検討していく。

③ ブランド委員会について

答 委員会は加工品を尾瀬ブランドとして認定したが、今回はトマトや花豆など片品を代表する農産物をブランドとして情報発信するチラシやホームページの作成を検討中。来年度予算にも入れ、今年8月の名水サミット時に発表できるように検

のために、食品のベクレル測定器を早期に購入したい。

② 中学校の通学路工事は予定どおり進んでいるか

答 契約は12月末なので雪が降らなければ工期内に終わる予定。追加工事として、花壇スペースを一ヶ所確保した。街路灯を今回の補正に入れた。防犯灯はソーラー式です。



中学校への通学路工事

討している。

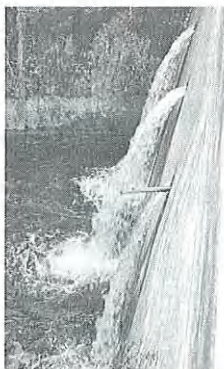
④ 「尾瀬片品村」へ村名改名は
尾瀬に改名しようとしたが、檜枝岐村から止めてほしいといわれた。申請すれば、知事の許可で村名は変えられると思う。

「委員会合意」「尾瀬片品村」という方向というのでなく、研究して行くことにする。

⑤ 村内のセシウム測定について

答 公共施設は一週間に一回(20か所)測定中。役場の庭は毎日測定している。

⑥ 村内で測定値の高い所はあるか。
答 それはない。



小水力発電候補の綱沢川ダム

能な場所の視察をした。

その報告書を当局に提出し、12月補正予算で調査費の計上を実現した。新聞記事では、「小水力発電のスマートグリッド構想で県が本村を特区申請した」とあるが詳細を教えてください。

答 これは県が6市町村を特区申請した。これが認

総務文教常任委員会 行政視察

視察の期日

平成23年10月19日

視察の場所

下仁田町立下仁田小学校・富岡市特別養護老人ホーム妙義

視察の目的

今後の片品村の教育環境及び老人福祉施設整備の参考にするため

視察の概要

【下仁田小学校】

下仁田町は、人口の減少と共に少子高齢化が進み、20年間で三分の一に減少しました。小中学校施設の耐震診断の結果、危険改築や大規模改修が必要であるという診断結果が出ました。

そこで教育委員会が中心となってアンケート調査や地区別懇談会を開催し、小学校整備事業対策協議会を設立しました。

基本構想及び同構想を実現するための具体的要望事項をまとめ地区別説明会を開催しました。



窓ガラスと地元木材の多量使用の小学校舎



小学校統合に尽力された高木成雄下仁田町教育長との懇談

その後、議会で5つの小学校を一つに統合することを決定しました。下仁田町立統合小学校校舎建設委員会で協議を重ね、校舎建築を進めました。

事業費13億円のうち交付金・補助金と過疎債で事業費の98%をまかない、一般財源2,725万円で建設しました。

無料スクールバス(民間委託)小中学生を送迎する体制も整備しました。昼間は一般人も乗せる。

完成まで6年間かかり、来年4月から新小学校が開校します。

【富岡市特別養護老人ホーム妙義】

少子高齢化が進み、高齢者世帯が増加するなかで、住民の多くができるだけ安く入所できる公設民営の特別養護老人ホームを建設してほしいという切実な願いが高まりました。

妙義町議会は公設民営の特養施設建設を決定し、建設費用7億6千万円で55床の特養施設が建設されました。

「著しい少子化が進行する中での望ましい村立学校のあり方について」検討・審議して年内に片品村長に答申する予定です。

「整備要望を行う必要があります。今年度の視察は、今後の片品村の具体的な方向を探るために大変参考になりました。今後は、実現に向けて村をあげてひとつひとつ成し遂げていくことが必要だと思います。(星野育雄委員長記)

公設のため早期(3年間)に施設が建設でき、運営を専門の社会福祉法人に委託、施設使用料を借入金返済に充当している。入居者の8割が地元住民です。従業員43名は市民の働く場となっています。

視察の結果

片品村も少子高齢化が進み、現在280人いる小学生が6年後には165人に減少します。

現在、片品村立学校のあり方検討委員会



富岡市特養老人ホーム妙義の視察と懇談



観光産業常任委員会 行政視察

■視察の期日

平成23年10月18日

■視察の場所

長野県大町市の市営町川発電所とNPO地域づくり工房

■視察の目的

小水力発電事業の経緯と実績及びミニ水力発電事業、菜の花畑並びに搾油施設の取り組み

■視察の概要

【市営町川発電所】

大町市では農業用水を有効利用する小水力発電を導入した。急勾配な地形を利用して毎秒約1トンの水を使い最大出力140kwの発電を行っている。

発電した電力は自営線を建設し、近くの大町市クリーンプラント(し尿処理場)に送電し経済性にすぐれた自家消費型の発電施設としている。

【ミニ水力発電、菜の花畑等】

NPO地域づくり工房は、「環境、福祉、学びあいの仕事おこし」をスローガンに掲げ、持続可能な地域社会の建設に貢献することをめざして作られた。「くるくるプロジェクト(ミニ水力発電)」「菜の花エコプロジェクト(菜

の花オイル)」を両輪に活動している。

くるくるプロジェクトは、農業用水路に数十メートルおきに設置してある約千箇所の「落差工」を活用し(県産木材を使った水車等)自然エネルギーを引き出している。

菜の花エコプロジェクトは、閉鎖されたスキーマ場や休耕田を生かして菜種とそばとの混作で栽培している。菜の花の種を絞って「食べるバージンオイル」の販売やエコツアーを企画している。(菜の花は

5月いっぱい、そばの花は8月下旬から9月位が見ごろ)

■視察の結果

自然環境の類似点が多く大変参考になりました。エネルギーの地産地消の観点より、砂防ダムや堰堤、水路施設等の落差と流量を利用し小水力発電を推進していく事が地域資源を生かす事だと思えます。

山間部の地形を利用した片品村独自の取り組みが必要です。小水力やバイオマスを取り入れ、観光促進や景観

の向上、環境の維持、再生可能エネルギーの学習の場としても活用する事が、地域経済を活性化することであると思います。

(星野千里委員長記)

休耕田などに展開する菜の花畑



市営町川小水力発電所



個人宅前に設置の小水力発電



採取した菜の花の種と、それを絞って食べるオイルを販売している。





尾瀬文学賞表彰式



御座入橋の開通式 (須賀川御座入線)

総合産業文化展(役場2階)



新年賀詞交歓会、田中夫妻による福島民謡



降雪・安全祈願祭 (笠科神社)



日光市議会との交流会 (片品村役場)



安全祈願祭 (武尊牧場スキー場)



椎坂トンネルの見学 (日光市議も)

祝第64回片品村成人式 (Celebrating the 64th Katashina Village Coming of Age Ceremony)



3カ月間の主な活動記録 (Main Activity Record for 3 Months)

3月議会を傍聴しませんか！ (Don't you listen to the March Council session!)
次回定例会は、3月中旬です。 (The next regular session is in mid-March.)
一般質問が一問一答方式に変わりますので、注目して下さい。 (General questions will be in a Q&A format, so please pay attention.)
一般質問の質疑応答の全文は、片品村公式ホームページにて閲覧することができます。 (The full text of Q&A is available on the official website.)
URL: http://www.vill.katashina.gunma.jp/

編集後記 (Editorial Note)

大変な役目を担ってしまっただなあ！これが、編集長としての今の率直な感想である。慣れればあっという間にできると言われたり、自分もそう期待していた。だが、厳しいのが現実。そう成り得ていないのがもどかしい。そのためか、編集に結構時間を費やしている。こまめに読んでくれている読者を思うと、弱音を吐いたり気を抜いてはられないなあ！(議会だより編集委員長 戸丸廣安記)

議会活動日誌 (Council Activity Diary)

- 11月
3日 総合産業文化展表彰式
7日 日光市議会と交流会/椎坂トンネル見学
9日 学校のあり方検討委員会
10日 利根郡議員親善ゴルフ大会
13日 道路愛護
" 尾瀬文学賞俳句大会表彰式
25日 議会運営委員会、議会全員協議会
" 議会臨時会
30日 国道120号線期成同盟会
12月
1日 御座入橋開通式
7日 片品村降雪・安全祈願祭
" 12月議会定例会開会 / 補正予算説明会
9日 総務文教・観光産業常任委員会
13日 12月議会定例会閉会
14日 学校のあり方検討委員会
15日 オグナ・武尊牧場スキー場安全祈願祭
21日 尾瀬クリーンセンター議会
1月
6日 消防団出初め式
" 新年賀詞交歓会
8日 片品村成人式

発行 片品村議会

責任者 高橋

正治

編集

議会だより編集委員会

印刷所 笠原印刷(有)